

## SIC 2023年の主要な活動予定（案）

SIC 第二回理事会（22/12/16）

2023年はSIC設立後5年目に当たる。これまで蓄積してきた分析、知見、外部発信をベースに、依然として遅々として進まない日本の産・官・学におけるシステム化を推進する突破口を切り開く時期が来ていると考える。

2022年には3つの分科会が終了し、報告書と提言が発信されつつある。また「流通とシステム化分科会」が新しく設立され活発な活動を行っており、今年の第1回理事会で決まったSoS分科会も設立の準備が完了し、正式な理事会の承認を待つばかりとなっている。今年の夏に行った大規模な会員企業へのアンケートは、会員の生の声を聴くための確実な情報源となった。回収率は90%という驚異的な数字であり、会員企業の関心の高さがうかがわれた。このアンケート結果はシステム化の生の声をボトムアップで伝えた価値ある記録となっている。

今秋から開始した「戦略フォーラム」はすでに11回開催を終え、戦略その他提言のための十分な情報収集を得た。また人財育成では、昨年の理事会で決定された「連続講演会」が実施され、70名を超える聴講申し込みを得て順調に進行し、来年の1月に完結を予定している。システム化の人財育成の新しい試みとしてこの分野にインパクトを与えることが出来たと思われる。

来年度はこれまでのフォーラム開催、ニュースレターの発刊、人財育成のための各種講習会の開催などの活動を続けると同時に、現在以上にSICの存在感を増すような外部発信を強化したい。そのため、前センター長の齊藤氏がセンター長に就任されているDADCとの連携を強化し、SICの活動の奥行きを広げその目標の社会実現を具体的に図っていく道を探りたい。また、人材育成では今年度行った活動の構造化をさらに進めるとともに、「ケーススタディ講習会」の恒常的な実現を目指し外部との協力関係を探っていききたい。具体的には以下のような新しいイベントを計画している。

### （1）「SICシステム化戦略提言」の発出

中期計画の一環として、今の日本で欠けている、あるいは十分でないシステムを列挙し、その構築の必要性と具体的な構築戦略を提言する。この発信は「システム化推進シンポジウム」のようなかたちでメディアにも発信し、同時に関連省庁にも届ける。

### （2）シンポジウム：ロジスティックスのシステム化を目指して

ロジスティックスは最もシステム化の真価が問われる分野であり、日本では海外に比べて著しくシステム化が遅れている分野である。また同時に、SICが強みを持つ分野である。ロジスティックスにかかわる多くの分野の専門家を集め、そのさまざまな側面を取り上げ、システム化の妨げとなっている要因を掘り下げ、今後の推進の有効な戦略を探る。

### **(3) 「システム人交流会」の実施**

システム化の人財育成イベントに出席した人に「システム人」の称号を与え、システム人相互の交流を促進することを目的としたイベントである。2年前から企画・予定されてきたが、コロナ禍によって実現が阻まれてきた。来年こそはそれを実現したいと思っている。

### **(4) 「ケーススタディ講習会」の連続化、恒常化**

現在人財育成協議会で企画されているこの講習会は、「システム化」を実際のシステム構築の場で追体験し、広範な分野にまたがるシステム化の技術とノウハウの追体験を通して学ぶための新しい人財育成の方策である。これを実施するには、実システムを教材として提供して頂くことが必要となる。この講座の実施に当たって最も大きなバリアーがこの部分である。来年は全体的な視点から積極的に材料となるシステムを提示して頂けるような仕組みを、官、産・学の協力によって作り上げることに挑戦したいと思う。

以上

# 2023年度予算案(暫定版)

2022年度第2回 理事会資料

2022年12月8日

## ■収入予算

項番	収入科目	会員数	2022年度実績	2023年度予算	備考
	(1) 年会費収入				
1	・正会員	31社	¥17,200,000	¥17,600,000	会員 新規入会会員数 2口会員 5社
2	・学会会員	46名			
3	・個人会員	9名	¥45,000	¥45,000	
4	会費収入 小計		¥17,245,000	¥17,645,000	
5	(2) 受託収入(公的機関からの調査委託費)		¥0	¥0	
6	(3) 講習会等参加費(会員外からの収入含む)		¥2,980,000	¥1,500,000	研修講座 その他参加費収入
7	(3) 共同研究実施費用				
8	(4) 利息		¥230		
9	会費以外の収入 小計		¥2,980,230	¥1,500,000	
10	当期 収入総計		¥20,225,230	¥19,145,000	

## ■実行予算

項番	支出科目	2022年度実績	2023年度予算	備考
11	(1) 事業費 小計	¥7,425,805	¥17,420,000	
12	・総会運営		¥350,000	ハイブリッド
13	・理事会・戦略委員会 運営費	¥924,510	¥300,000	ハイブリッド
14	・SIC特別調査費		¥5,000,000	
15	・SIC戦略提言書 製本・配布		¥500,000	
16	システム化シンポジウム	¥0	¥1,500,000	
17	・実行委員会 運営費	¥0	¥100,000	1回は、実行委員会の対面会議を実施費用
18	・分科会・WG・人材育成協議会の運営費			
19	分科会謝礼	¥182,000	¥600,000	3つの分科会を想定
20	活動費(調査委託費)	¥1,300,000	¥1,500,000	流通とシステム化、SOS等の分科会活動費
21	・SIC 活動成果発表会 3分科会報告会	¥0	¥500,000	
22	・ケーススタディによるシステム構築講習会	¥0	¥1,200,000	ケース事例 3件
23	・システム塾運営費	¥0	¥500,000	年1回
24	・システム人交流会	¥58,000	¥800,000	会場 対面
25	・研修講座 講習会開催費	¥2,995,784	¥1,500,000	
26	・SIC産学交流会運営費	¥0	¥100,000	年2回
27	・SICフォーラム運営費 戦略フォーラム	¥969,611	¥500,000	
28	・経営者研修講座 パネルディスカッション	¥94,000	¥1,000,000	2023 2/1に開催
29	・広報活動 ニュースレター発行、HPによる情報発信、その他	¥411,034	¥500,000	
30	広報資料(パンフレット等)作成費	¥159,000	¥200,000	
31	広報強化(プレス発表、Youtube等)による	¥0	¥100,000	
32	SICの広報誌	¥46,000	¥200,000	
33	・外部団体との連携活動の強化	¥0	¥100,000	
34	・SIC活動のシステム化(デジタル化) 情報基盤の高度化 (Teams契約、ZOOM、Adobe等)のソフト活用追加整備)	¥125,866	¥300,000	
35	・租税公課	¥160,000	¥70,000	
36	(2) 管理費 小計	¥8,874,441	¥8,975,000	
37	・事務所 賃貸・共益費	¥3,185,799	¥3,240,000	
38	・人件費	¥5,001,912	¥5,000,000	
39	・事務管理の充実(備品類の整備等)	¥186,890	¥200,000	
40	・事務所 消耗品、その他諸経費	¥239,840	¥150,000	
41	・保守費	¥22,000	¥60,000	
42	・旅費・交通費 国内/海外	¥0	¥50,000	
43	・郵送費	¥150,000	¥150,000	
44	・通信費	¥30,000	¥60,000	
45	・雑費	¥30,000	¥30,000	
46	・振込手数料	¥28,000	¥35,000	
47	(3) 予備費	¥0	¥900,000	
48	実績及び実行予算計	¥16,300,246	¥27,295,000	
49	当期収支損益	¥3,924,984	(¥8,150,000)	収支の不足分は繰越金を充当する

## ■繰越金 期末正味財産

項番		2022年度	2023年度	
51				
52	期首繰越金	¥22,645,334	¥26,570,318	
53	収支額	¥3,924,984	(¥8,150,000)	
54	期末繰越金	¥26,570,318	¥18,420,318	

注記：2023年度予算は815万の繰越金を活用する。